

# 女性社長比率 9.1% 伸び率は鈍い状況で推移

全国平均を 0.5 ポイント上回り、過去最高を更新

## 中国地方・「女性社長」分析調査(2025 年)



本件照会先

牧 秀樹、松岡 静生、玄道 一成  
帝国データバンク  
広島支店 情報部  
TEL:082-247-5930(直通)  
info.hiroshima@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/12/15

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。  
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

中国地方の企業における女性社長の比率は 9.1% を占めた。全国平均(8.6%)を 0.5 ポイント上回り、過去最高をさらに更新した。年代別では、『60-64 歳』が 14.5% で最も高かった。売上規模別では、『5000 万円未満』が 13.4% でトップ。出身大学別では、『広島女学院大学』が最も多かった。業種別では、『不動産業』が 2 割を超えて最も高かった。なお、中国 5 県すべてが全国平均より高かったものの、女性社長の伸び率は鈍い状況で推移しており、1 割を超えるにはまだ期間を要しそうだ。

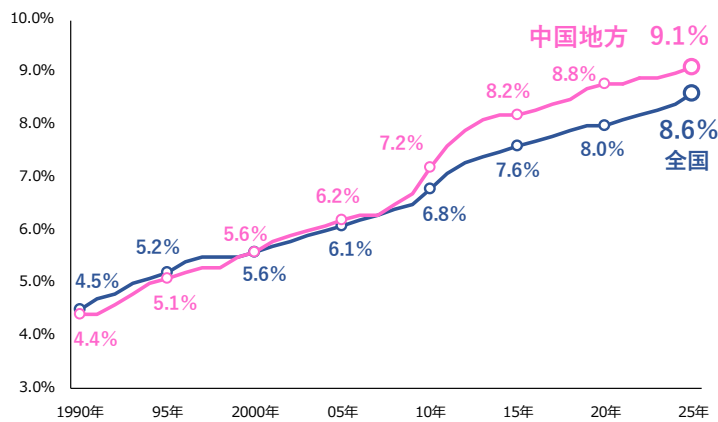
※帝国データバンク広島支店では、自社データベースをもとに、2025 年 10 月末時点で中国地方に本店を置く企業（株式会社・有限会社・合同会社・合名会社・合資会社）のうち、女性が社長を務める企業 6927 社について分析を行った。なお、2019 年以前は「株式会社」「有限会社」のみが対象。

## 1. 2025 年の女性社長比率 9.1%、過去最高を更新

中国地方における2025年10月末時点の女性社長の比率は9.1%を占めた。35年前の1990年(平成2年)は4.4%、25年前の2000年(平成12年)は5.6%、15年前の2010年(平成22年)は7.2%、5年前の2020年(令和2年)は8.8%で、女性社長の比率は緩やかながら上昇傾向で推移し、2025年は前年を0.1ポイント上回り、過去最高を更新した。

男女雇用機会均等法が施行されて間もない35年前の1990年(4.4%)と比較すると、4.7ポイント伸びて倍増した。『全国』(8.6%)を0.5ポイント上回り、近年は全国より高い状況で推移しているものの、女性社長の占める割合はいまだ1割に届かない状況となっている。

### 女性社長比率の推移 全国との比較



## 2. 年代別、『60-64 歳』が 14.5%で最も高く

年代別にみると、『60-64 歳』が構成比 14.5%で最も高かった。次いで、『75-79 歳』(13.1%)、『65-69 歳』(12.9%)、『70-74 歳』(12.5%)、『55-59 歳』(11.7%)が続いた。

30 年前の 1995 年と比較すると、『70-74 歳』『75-79 歳』『80 歳以上』で増加し、高齢化が進んでいる。

### 女性社長の年齢分布

年代別	※単位は%、()は全国比					対95年比 増減
	1995年	2005年	2015年	2020年	2025年	
30歳未満	0.6 (+0.1)	0.4 (+0.0)	0.2 (▲0.1)	0.3 (+0.1)	0.2 (▲0.1)	▲ 0.3
30-34歳	0.9 (▲0.6)	1.2 (▲0.3)	1.0 (▲0.1)	0.7 (▲0.2)	0.9 (+0.0)	▲ 0.1
35-39歳	2.3 (▲1.0)	2.7 (▲0.2)	2.6 (▲0.1)	2.0 (▲0.4)	1.9 (▲0.4)	▲ 0.4
40-44歳	5.5 (▲0.3)	4.1 (▲1.4)	4.9 (▲0.6)	4.4 (▲0.2)	4.0 (▲0.6)	▲ 1.5
45-49歳	14.2 (+0.2)	6.7 (▲0.9)	7.3 (▲0.5)	7.6 (▲0.5)	6.6 (▲1.0)	▲ 7.6
50-54歳	15.4 (+0.1)	11.4 (▲0.3)	9.4 (▲1.2)	9.6 (▲0.7)	10.4 (▲1.0)	▲ 5.0
55-59歳	16.3 (▲0.1)	20.5 (+0.5)	11.6 (▲0.5)	12.1 (▲0.5)	11.7 (▲1.3)	▲ 4.5
60-64歳	15.1 (▲0.6)	16.2 (▲0.6)	15.8 (+1.2)	13.1 (+0.1)	14.5 (+0.9)	▲ 0.6
65-69歳	13.1 (+1.1)	13.5 (+0.7)	19.3 (+0.9)	14.8 (+1.1)	12.9 (+0.4)	▲ 0.2
70-74歳	9.0 (+0.9)	9.8 (+0.2)	11.4 (▲0.3)	16.5 (+0.8)	12.5 (+0.4)	3.5
75-79歳	4.7 (+0.6)	7.5 (+1.2)	7.6 (+0.2)	9.0 (▲0.1)	13.1 (+1.7)	8.4
80歳以上	3.0 (▲0.3)	5.9 (+0.9)	8.8 (+1.0)	9.9 (+0.6)	11.2 (+0.9)	8.2

### 3. 売上規模別、『5000 万円未満』が 13.4%でトップ

売上規模別にみると、『5000 万円未満』が構成比 13.4%を占めて最も高かった。次いで、『5000 万円～1 億円未満』(8.6%)、『1 億円～5 億円未満』(6.7%)、『5 億円～10 億円未満』(4.4%)で続き、概ね売上規模が小さいほど女性社長の比率が高かった。

35 年前の 1990 年と比較すると、最も高かった『5000 万円未満』では 6.4 ポイント上昇した。

#### 売上規模別

売上規模	1990年 (35年前)	2000年 (25年前)	2010年 (15年前)	2020年 (5年前)	2024年 (前年)	(%)	(pt)	
						2025年 現在	対90年比 増減	対前年比 増減
5000万円未満	7.0	8.8	9.7	13.2	13.2	13.4	+6.4	+0.2
5000万円～1億円未満	5.3	6.8	7.6	8.2	8.3	8.6	+3.3	+0.3
1億円～5億円未満	4.2	5.0	5.8	6.2	6.5	6.7	+2.5	+0.2
5億円～10億円未満	3.0	3.7	4.2	4.6	4.5	4.4	+1.4	▲ 0.1
10億円～50億円未満	2.5	3.1	2.4	2.6	2.8	3.2	+0.7	+0.4
50億円～100億円未満	0.8	1.2	1.8	1.2	0.8	1.4	+0.6	+0.5
100億円以上	0.7	1.7	2.5	1.7	1.8	1.9	+1.2	+0.1

### 4. 県別、中国 5 県すべてが全国を上回る

中国 5 県別にみると、『山口県』が構成比 9.6%で最も高かった。次いで、『鳥取県』(9.5%)、『岡山県』(9.3%)、『広島県』(8.8%)、『島根県』(8.7%)が続いた。5 県すべてで 1 割を下回ったものの、5 県すべてが全国平均(8.6%)を上回った。

都道府県別にみると、『山口県』が全国 13 位、『鳥取県』が 17 位、『岡山県』が 19 位、『広島県』が 25 位、『島根県』が 27 位となった。

前回調査の 2024 年と比較すると、『山口県』が 0.3 ポイント増、『島根県』『岡山県』がともに 0.2 ポイント増となった。なお、『鳥取県』『広島県』は横ばいだった。

#### 中国 5 県別

中国5県	2025年	全国順位	2024年	前年比
鳥取県	9.5%	17	9.5%	0.0
島根県	8.7%	27	8.5%	+0.2
岡山県	9.3%	19	9.1%	+0.2
広島県	8.8%	25	8.8%	0.0
山口県	9.6%	13	9.3%	+0.3

## 5. 出身大学別、『広島女学院大学』が最多

出身大学別について女性社長数の上位をみると、『広島女学院大学』が 20 社で最も多かった。次いで、『広島大学』と『岡山大学』（各 16 社）、広島県にある『安田女子大学』（15 社）、岡山県にある『ノートルダム清心女子大学』（13 社）、広島県にある『比治山大学短期大学部』（10 社）が 10 社以上となった。

以下、『就実大学（岡山県）』『第一薬科大学（福岡市南区）』が各 9 社、『山口大学』、『鈴峯女子短期大学（広島県）』『広島修道大学』『神戸女子大学（兵庫県）』『関西学院大学（兵庫県）』が各 8 社、『宇部フロンティア大学短期（山口県）』『立教大学（東京都）』が各 7 社で続いた。

前回調査の 2024 年と比較すると、最も多かった『広島女学院大学』では 1 社増加した。2 番目に多かった『広島大学』でも 1 社増加し、『岡山大学』は横ばいだった。

出身大学別 上位

順位	大学名	(社)	前年比(社)	(社)
1	広島女学院大学	20	+1	(19)
2	広島大学	16	+1	(15)
2	岡山大学	16	±0	(16)
4	安田女子大学	15	-5	(20)
5	ノートルダム清心女子大学	13	-2	(15)
6	比治山大学短期大学部	10	+2	(8)
7	就実大学	9	+1	(8)
7	第一薬科大学	9	±0	(9)
9	山口大学	8	+1	(7)
9	鈴峯女子短期大学	8	±0	(8)
9	広島修道大学	8	+1	(7)
9	神戸女子大学	8	+1	(7)
9	関西学院大学	8	±0	(8)
14	宇部フロンティア大学短期	7	+1	(6)
14	立教大学	7	+2	(5)
16	山陽女子短期大学	6	-2	(8)
16	美作大学短期大学部	6	±0	(6)
16	中国短期大学	6	-2	(8)
16	岡山県立短期大学	6	±0	(6)
16	武庫川女子大学	6	±0	(6)

※ ( ) 内は2024年調査時点の人数

## 6. 業種別、『不動産』が 21.1%でトップ

業種別にみると、『不動産』が構成比 21.1%で最も高く、唯一 2 割を超えた。次いで、『サービス』（13.8%）、『小売』（11.5%）が 1 割を超えて続き、主に日常生活に関連する業種で女性社長の比率が高いことが分かった。

一方、女性社長の割合が最も低かったのは『農林水産』（4.8%）で、『建設』（4.9%）、『製造』『運輸・通信』（各 5.9%）が続いた。

35 年前の 1990 年と比較すると、全 10 業種で女性社長の割合が上昇した。増加率が最も高かったのは、『不動産』（10.8 ポイント増）だった。

業種細分類別（母数 50 社以上）にみると、『化粧品小売業』が構成比 54.0%で最も高かった。次いで、『バー、ナイトクラブ』（35.8%）、『洋品雑貨・小間物小売業』（34.8%）、『老人福祉事業』（34.7%）、『個人教授所（学習塾を除く）』（34.0%）、『美容業』（33.6%）、『身体障害者福祉事業』（31.3%）が続き、美容や趣味関連、福祉事業などに密着した業種で女性社長の比率が高かった。以下、『婦人・子供服小売業』（30.9%）、『貸家業』（29.7%）、『化粧品卸売業』（26.4%）となり、小売業や不動産業が続いた。

業種別										業種細分類別 上位			
業種別	1990年 (35年前)	2000年 (25年前)	2010年 (15年前)	2015年 (10年前)	2020年 (5年前)	2024年 (前年)	（%）		（pt）	順位	業種名	（%）	
							2025年 現在	対90年比 増減				2024年	2025年
建設	2.5	3.6	4.5	4.5	4.6	4.9	4.9	+2.4	±0.0	1	化粧品小売業	48.5	54.0
製造	3.0	3.4	4.6	5.0	5.3	5.7	5.9	+2.9	+0.2	2	バー、ナイトクラブ	34.5	35.8
卸売	3.9	4.9	5.5	6.3	6.7	6.9	6.9	+3.0	±0.0	3	洋品雑貨・小間物小売業	31.8	34.8
小売	6.9	8.7	10.1	11.1	11.2	11.5	11.5	+4.6	±0.0	4	老人福祉事業	34.8	34.7
運輸・通信	3.8	5.0	5.7	6.0	6.1	6.0	5.9	+2.1	▲ 0.1	5	個人教授所（学習塾を除く）	34.7	34.0
サービス	6.3	7.8	10.1	11.9	12.9	13.2	13.8	+7.5	+0.6	6	美容業	33.7	33.6
不動産	10.3	14.5	18.3	20.4	21.6	21.4	21.1	+10.8	▲ 0.3	7	身体障害者福祉事業	33.8	31.3
農林水産	1.9	2.2	4.5	4.6	5.2	4.7	4.8	+2.9	+0.1	8	婦人・子供服小売業	30.0	30.9
鉱業	4.6	6.6	5.7	8.3	3.2	5.8	6.0	+1.4	+0.2	9	貸家業	30.0	29.7
金融・保険	3.0	5.2	8.0	9.1	9.5	8.9	8.8	+5.8	▲ 0.1	10	化粧品卸売業	27.1	26.4

## まとめ

今回の調査では、中国地方にある企業に占める女性社長の比率は 9.1%となった。概ね上昇基調で推移するなか、過去最高をさらに更新した。業種別では、不動産業、サービス業、小売業など生活や美容、趣味、福祉関連が上位を占めた。中国 5 県すべてが全国平均（8.6%）を上回り、全国よりわずかながら高い水準で推移しているが伸び率は鈍く、1 割を超えるにはまだ期間を要することが見込まれる。

政府による「女性版骨太の方針 2025」では、女性が地方でも活躍できる環境の整備を重点課題とし、あらゆる分野の意思決定層における女性の参画拡大を推進しており、女性起業家の育成・支援の幅広い施策が期待される。